

# 慢性肝疾患におけるGd-EOB-DTPA造影MRIを用いた 肝障害度の評価

## 【はじめに】

Gd-EOB-DTPA (Gadoxetate sodium) は肝細胞が特異的に取り込む造影剤で、投与する前後にMRIを撮影してその変化を見れば、肝細胞の機能が推測できます。慢性肝疾患や肝硬変の患者さんでは肝細胞の機能が低下することが予測されるので、この造影剤を使ったMRIで、肝障害度を間接的に評価できるのではないかと考えました。

## 【対象】

九州大学病院で肝精査のため、Gd-EOB-DTPAを使ってMRIが撮影された方の画像（期間：2008年5月から2010年6月）を対象とします。

## 【研究内容】

MRIで、Gd-EOB-DTPA投与後の肝臓の信号変化が、肝機能の指標として使われている数値（Child分類、ICG値や肝受容体scintigraphyなど）、手術標本で見られる細胞レベルの肝臓の障害度（線維化や炎症・壊死の程度など）や放射線起因性肝障害の有無と関連があるか検討することです。

## 【患者さんの個人情報の管理について】

本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

## 【研究期間】

研究を行う期間は承認日から2011年7月31日

## 【医学上の貢献】

MRIで、肝機能、肝実質の病理や放射線起因性肝障害の有無が推測できれば、従来通りの検査の範囲内で、付加情報が得られ、今後の治療方針の決定に役に立つと考えられます。

## 【研究機関・組織】

九州大学大学院	臨床放射線科	教授	本田 浩（責任者）
		助教	西江昭弘
	形態機能病理	大学院生	藤田展宏
	消化器・総合外科	講師	武富紹信

連絡先：〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

Tel：092-642-5695

担当者：西江昭弘